

書評

木村信行著  
木村信行著  
木村信行著

道

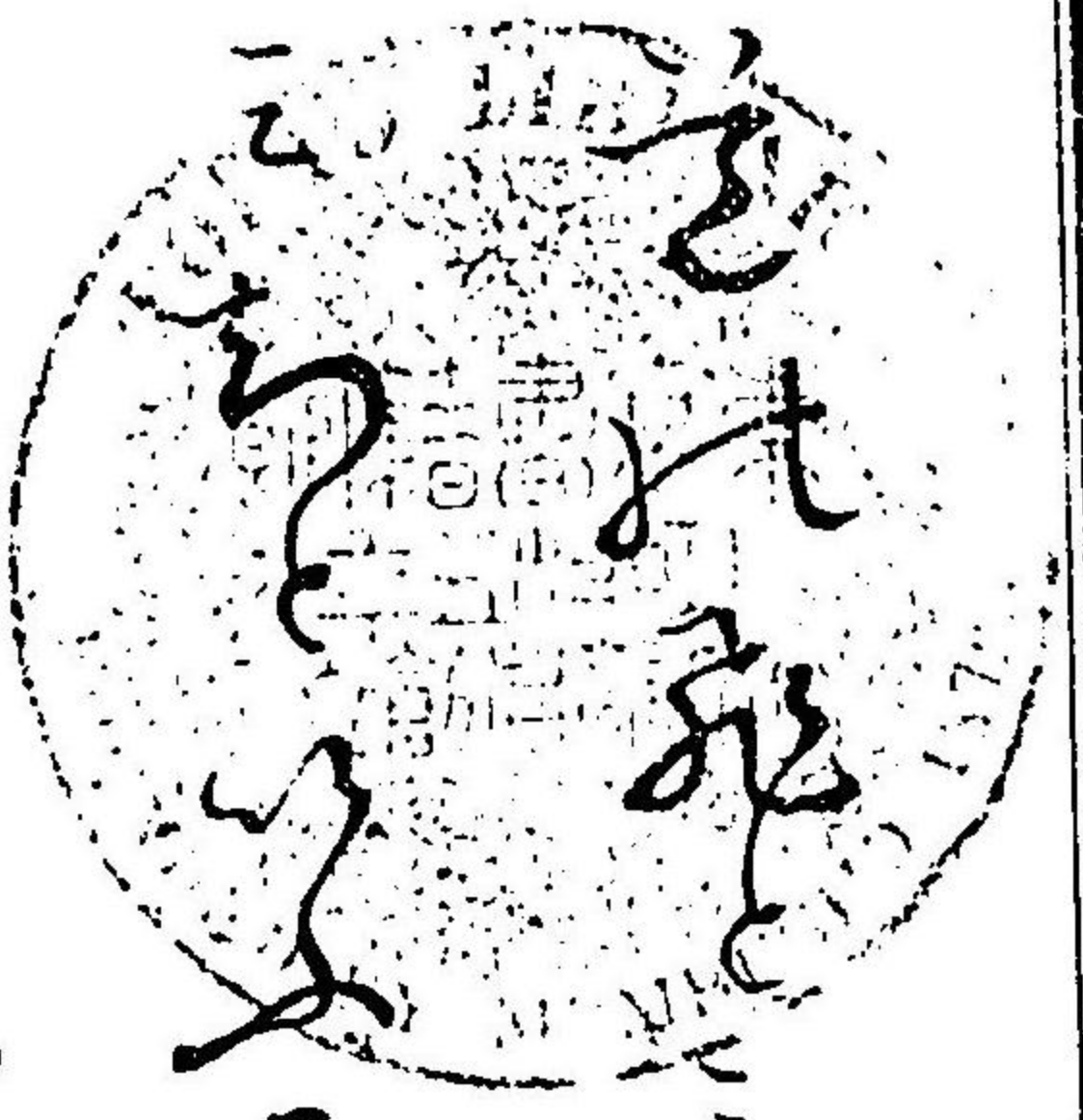
一

附録

完

明治三十八年  
十月發行

愛吾廬梓



をれ飛と云乃何

昭和九年圖書寮蔵

をれ飛と云乃何

おのま考ふ

血のまろなりや  
血のまろなりや  
血のまろなりや

那岐の神乃。橘のちりよぐ原乃大なる



特35.  
770



云乃乃

云々。終御ス人々とのうら

おのま考ふ

2. 被<sup>ニ</sup>清<sup>キ</sup>血のまらなり。其<sup>ニ</sup>伊<sup>ノ</sup>那

那岐の神乃。橘のちよよが原乃大なる

明治元年圖書寮交付



此の時。天照大神のなりてし。つらねて。  
皇孫スミマキの法ホをいひまはさむ事ヨロシヨ  
はく。つらねておほせらるし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。

つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。  
つらねてし。つらねてし。つらねてし。



今本村のいしきまきしる。ゆるミナノ一

いしきまきしる。おのミナのミナいしきまきしる。

いしきまきしる。いしきまきしる。いしきまきしる。

いしきまきしる。いしきまきしる。いしきまきしる。

いしきまきしる。いしきまきしる。いしきまきしる。

伊豫の松い乃人よ。えくろう大津國の  
ちまフルとマナい。内さ尊い。お國トツクニのいしきま  
きしる。いしきまきしる。いしきまきしる。  
いしきまきしる。いしきまきしる。

伊豫 昔 松



學  
一  
上  
書  
一

[Blank page area]

東  
山  
書  
畫  
印

東  
山  
書  
畫  
印

神の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神  
の屋、まじりて、まじりて、神

學  
一  
上  
書  
一



おまけに中郡のあつたての  
けまをもちまへ人乃多あつて後の  
業もやうけいさくし  
うたの罪科をもちあつて  
清めをもちまへ鬼を神のまぢり  
るを原をもちまへのはるを死後の  
幸福をもちまへおとあいを古ま  
もの中より考へ出給ふ

おまけに中郡のあつたての  
けまをもちまへ人乃多あつて後の  
業もやうけいさくし  
うたの罪科をもちあつて  
清めをもちまへ鬼を神のまぢり  
るを原をもちまへのはるを死後の  
幸福をもちまへおとあいを古ま  
もの中より考へ出給ふ

檀大備系半丹忠見



道一言

愛媛縣松山

大講義木村信統講說

男 同 茂榮筆記

覆載ノ中。億兆ノ黔首。盡ク伊邪那岐伊邪那美ノ  
 神ノ裔孫ナラザルハ無シ。サレバ人ノ世ニ在ル  
 ハ。始祖伊邪那岐伊邪那美ニ神ノ皇祖天神ノ御  
 依シテ受ケ玉ヒシ。修理固成ノ神業ヲ。已カ程々  
 傳承ケテ。二神ノ跡ヲ追ヒ。修理固成唯神ノ道ヲ  
 勤メ。再ヒ子孫ニ傳承セシメンガ爲メナリケリ。



其伊邪那岐伊邪那美二神ノ皇祖天神ノ御依シ  
ヲ受ケ玉ヒシ。修理固成ノ神業トハ。神典ニ。此漂  
ヨヘル地ヲ。修理固成ト詔シテ。天ノ瓊矛ヲ授ケ  
玉ヒシ。丁ニテ。即チ惟神ノ道ト云フ者是也。儲其  
惟神ノ道ト云フ者ハ。皇祖天神ノ定立玉ヘル御  
規則ニテ。君々タリ。臣々タリ。父々タリ。子々タリ。  
夫々タリ。婦々タリ。兄々タリ。弟々タリ。天下公正。  
須臾モ離ル可ラザル大道ナリ。天下公正ノ大道  
ナル故ニ。萬國ニ通ジテ變ル丁ナク。天新ク地卑  
ク。頭ハ上ニ。足ハ下ニ。位置定マレル如ク。終古易

ル丁ナキ。天地ノ大經。宇宙ノ規則ナリ。天地自然  
ノ大經。宇宙固有ノ規則タル故ニ。頭ハ惡疾アリ  
ト雖。下ニ移ス可ラズ。足ハ肥白ナリト雖。上  
ニ移ス可ラズ。能ク此大理ヲ明晰ニシ。君臣分定  
マリ。移易可ラザル丁チ覺リ。臣庶タル者ハ君位  
ヲ窺フ可ラザル丁チ知リ。上下其分ニ安居シ。祖  
父相受ケ。伯叔序アリ。前生チ兄ト云ヒ。後生チ弟  
ト云ヒ。共ニ親愛ス。コレ生ノ隨ニテ。仁義孝弟忠  
信ノ教ヲ待スシテ行ハル。大道ナリ。此跡ニ隨  
フチ正トシ常トシ誠トシ善トシ。此ニ反スルチ。



邪トシ變トシ偽トシ惡トス。是ヲ以テ君ハ君夕  
ル可ク。臣ハ臣タル可ク。父々タル可ク。子々タル  
可ク。夫々タル可ク。婦々タル可ク。兄々タル可ク。  
弟々タル可シ。然ルハ天皇トマシテハ。皇祖天神  
ノ授ケ玉ヘル御言依シノ隨ニ。天神地祇ノ皇神  
等ヲ齋祀ラセ玉ヒ。天下公民ヲ撫玉ヒ恤ミ玉ヒ  
惠ミ玉ヒテ。萬國ヲ經綸シ玉フナモ。惟神ノ大御  
行業トハ申奉ル可キ。ソハ古事記ニ。天照大御神  
之命以豐葦原之千秋長五百秋之水穗國者。我御  
子正勝吾勝々速日天忍穗耳命之所知國言因賜

而天降也。マ夕古語拾遺ニ。宜太玉命率諸部神供  
奉其職如天上之儀。仍令諸神亦共陪從トアリ。又  
孝德天皇御紀ニハ。先以祭鎮神祇然後應議政事。  
又後宇多天皇ノ大御歌ニハ。天神地祇ヲ齋祀テ  
少我葦原ノ國ハ治マルト詠セ玉ヘルナリ。此類  
數限ナク多カリ。合セ考テ悟ルベシ。又臣下トシ  
テハ。天皇ノ惟神行ハセ玉フ。大御行業ニ違奉ラ  
ズ。淨ク明ク美シク正シキ誠ノ心以テ仕奉リ。惟  
神ノ大御政ヲ相輔ヒ輔翼奉リテ。天下清寧ニ公  
民安泰カラスム可シ。又大御代ヲ無窮ニ傳一カ



七玉フ中ニハ。邂逅ニハ惟神ノ御規則ニ。背ハセ  
 玉フフ絶テ無シトハ申可ラス。然有シ時ニハ。臣  
 ノ臣タル道ヲ盡シテ。君ヲシテ君ヲラシメ奉ル  
 ナモ。臣下タル人ノ美德ニシテ。惟神ノ臣道ナリ  
 ケル。又公民トシテハ。左ニモ右ニモ。上ノ御趣  
 ニ導ヒ奉リ。各モク神賦ノ家業ヲ食住チ得シ。為  
 ニスル業ハ。自然ニ世ノ為トナリ。人ノ為トナル者  
 ニシテ。修理固成ニ洩レサレバ。神賦ト云ナリ。  
 守リ勤メテ。衣食住ノ資ト為シ。身ヲ修メ徳ヲ行  
 ヒ。世ノ為ノ人ノ為メニ功德ヲ建テ。本ニ從ヒ未  
 ヲ惠ミ。相助ケ相救ヒ。未トハ。臣子婦弟等ナリ。己

ヲ棄テ他ヲ起シ。天皇惟神ノ大御政ノ。平カニ安  
 カランヲ。須臾モ忘ル可カラス。如是クスル時  
 ハ。父子親愛アリ。夫婦愛敬アリテ。人道自然ニ全  
 シ。コレナモ皇祖天神ノ立テ玉ヒ定メ玉ヒ。皇孫  
 命ニ依シ玉ヒ。古今萬國ノ差別ナク。天下公正ニ。  
 自然ニ行ハル。大道ニシテ。貴賤ノ等差ナク。宇  
 宙萬世ニ當然ニシテ。行ハル。真道ナリケル。實  
 ニ皇祖天神ノ御恩頼。天下ニ彌綸ハス。了斯ノ如  
 シ。惟神トハ。謂隨神道亦自ラ有神道也。トアル神道  
 ニシテ。皇道唯一ノ真旨。此外ニアル了ナシ。真ニ



天ニ二日ナク。地ニ二王ナク。天地ノ道ハ。惟神ニ  
シテ。二無キトテ悟ムベシ。識ラズク神祇ノ徳ヲ  
繼ギ。修理固成ノ賦命ヲ自然ニ有ツト。奇異ニモ  
亦靈妙ナラズヤ。此外ニ何ノ道。クレノ教ト云フ  
モノ。世ニ多シト雖也。获生茂卿ガ辨道書ニ。先王  
之道。先王之所造也。非天地自然之道也。又同シ辨  
名ニ。更數千載數聖人。盡其心力智巧。以成之。ト云  
ヘル如キ。小康ノ術ニコソアレ。我惟神ノ真道ニ  
比ス可キ者有ンヤ。故レ儒道ノ如キ佛法ノ如キ。  
上古無キ所ニシテ。中古ニ至リ朝廷大ニ崇敬シ

至ヒシモ今又然ラズ。神道ハ天地ト共ニ起リ。時  
ニ盛衰有リト雖也。連綿トシテ間斷アルトナシ。  
祈年月次新嘗鎮魂大祓ノ諸典。世々年々斷ルト  
ナク。御一新以降。大ニ興隆アラセラル、ヲ見テ。  
以テ真道ト造道ト其別晰然タルヲ見ル可シ。人  
能此惟神ノ道ニ從ヒ。勤ム可キヲ勤ノ。犯ス可ラ  
ザルヲ犯サズ。飲食節有リ。起居常有リテ。能ク清  
虚ヲ守リテ無爲ナル時ハ。百邪犯ス隈ナク。精神  
安靜。身體健剛ナリ。此ニ反スレハ。飽食惰怠ニシ  
テ。身體疾病ヲ生シ。嗜欲淫邪心。神ヲ惱マシ。百邪



從テ相盪シ。遂ニ死地ニ陥ラントス。此ヲ救フニ。  
 顯ニ醫藥ノ法アリ。幽ニ鎮魂ノ術アリ。人能ク此  
 惟神ノ道ヲ守リ。人ノ當然ニ從フ時ハ。神氣肉ニ  
 充實シ。心安ク體恭カナリ。君ノ賜ヲ得テ禄トシ。  
 父ノ免ヲ得テ婚シ。人ノ贈ヲ以テ粟ク。勉ムルヲ  
 以テ人ニ得。如此時ハ。君臣父子夫婦昆塚ノ大倫  
 立チ。仁義禮節此内ニ存ス。人ノ世ニ在ルハ。人ノ  
 爲ノナリ。事ヲ勉メ業ヲ行フモ。人ノ爲ノナリ。人  
 又我爲ノ世ニ在リ。事ヲ勉メ業ヲ行ヒテ我爲  
 ノ世ニ然レハ。皇祖天神ノ世ヲ見ソナハス。固

ヨリ親疎ナシ。是ヲ以テ顯見蒼生ト詔玉ヘリ。廿  
 一ハ四海皆昆弟ナリ。相助テ相救フヲ以テ人ノ  
 任トス。此ニ反スル時ハ。勢アル者ハ横臂脅肩驕  
 傲。上朝廷ニ跋扈シ。下兆民ニ苛政ス。姪姪殺伐此  
 ニヨリテ行ハレ。淫樂瀆禮世ヲ亂シ。賄賂ノ俗朝  
 野ニ公行シ。貧者ノ萬善モ富人ノ一非ニ勝ツ。一  
 能ハズ。且請雲ノ志アル者。才ト不才トヲ論セズ。  
 ヨク賄賂スル者ハ得。賂セザル者ハ失ヒ。上下妬忌  
 偏執ノ念盛ニシテ。人ノ徳ヲ竊ミテ我功トシ。人  
 ノ善ヲ掠メテ我惡ヲ掩ヒ。人ノ能ヲ犯シテ我拙



ヲ飾ルニ至ル。殆ンド會<sup>カ</sup>歌ニ<sup>テ</sup>庶幾<sup>カ</sup>シ。此故ニ顯ニ  
 刑律有リ。科ニ從<sup>フ</sup>テ之ヲ罪シ。幽ニ大<sup>ニ</sup>被<sup>リ</sup>アリテ。  
 既ニ犯セル邪<sup>ニ</sup>行<sup>ハ</sup>ヲ解除シ。再ヒ興<sup>ント</sup>スル惡<sup>ニ</sup>念  
 ヲ斷<sup>リ</sup>絶<sup>ス</sup>。是ヲ以テ天下大ニ同<sup>ノ</sup>ヒ。上下安寧<sup>ナ</sup>  
 リ。身ニトリテハ。心身康<sup>ニ</sup>安。家<sup>ノ</sup>内<sup>ニ</sup>靜<sup>ニ</sup>平<sup>ナ</sup>リ。抑大<sup>ニ</sup>被<sup>リ</sup>  
 ハ伊邪那岐ノ神。日向ノ<sup>カ</sup>插<sup>ナ</sup>ノ小<sup>ナ</sup>戸<sup>ノ</sup>身<sup>ニ</sup>深<sup>ニ</sup>起<sup>リ</sup>。  
 素盞鳴命。高天原ノ千座置<sup>ナ</sup>戸<sup>ノ</sup>被<sup>ニ</sup>就<sup>リ</sup>。天孫降<sup>リ</sup>  
 臨<sup>リ</sup>高千穗ノ宮ニ備<sup>具</sup>レリ。大<sup>ニ</sup>被<sup>リ</sup>ノ德<sup>ヲ</sup>ルソレ大  
 ナル哉。之ヲ執行スレハ。災<sup>ハ</sup>害<sup>ハ</sup>消<sup>ス</sup>息<sup>ス</sup>シ。幸福大ニ至  
 ル。此故ニ天下黔<sup>ク</sup>首<sup>ノ</sup>爲<sup>メ</sup>。毎年二次執行セラル

ル所以ナリ。又古へ疫病流行等ノ節ハ。臨時ニ行  
 ハレシ<sup>テ</sup>モアリ。又人ニ罪アル時ハ。其人ニ科<sup>ス</sup>セ  
 テ。行ハセ玉ヒシ<sup>テ</sup>モアリ。中古刑律起リ。刑ト被<sup>リ</sup>  
 ト並<sup>ヒ</sup>行ハレ。神事ニ關係シテ罪ヲ犯シ。又心中  
 ニ罪ヲ犯ス者ハ。被<sup>リ</sup>科<sup>ス</sup>セシメ。現在ニ罪ヲ犯ス  
 者ハ。刑ニ處セラル。今ノ贖罪金ト實決ト竝<sup>ビ</sup>行  
 ハル<sup>ハ</sup>。ガ如シ。其後武士跋扈シ。私ニ食<sup>ス</sup>國<sup>ノ</sup>大御  
 政ヲ左右シ。專<sup>ラ</sup>刑律ヲ行<sup>ヒ</sup>。大<sup>ニ</sup>被<sup>リ</sup>ハ<sup>テ</sup>贖<sup>物</sup>ノ如ク。  
 形<sup>ノ</sup>ミ存セリ。然ルニ御一新以來。古典ヲ再興セ  
 ラレ。毎年二次。天下ニ公行セラル<sup>ハ</sup>。トナレリ。



人能ク前非ヲ悔悟シ。身ヲ慎ミ行ヲ改メ。法ニヨ  
 リテ之ヲ行ハ。何ゾ神祇ノ感應空シカラシ。然  
 レ氏前非ヲ悟ラス。汚行ヲ改メズンバ。千度之ヲ  
 執行スル氏。何ソ其甲斐アラン。譬ヘバ強風ヲ思  
 謙シテ。衣服ヲ脱故ノザルガ如シ。人法ニ因テ之  
 ヲ行ハ。身體忽チ幸福ヲ得ルノミナラズ。靈魂  
 ノ幸福モ亦窮リ無ラントス。人々良知有テ惡ヲ  
 ナスハ。心ニ惡ヲ知ラザルニ非ス。又之ヲ改ムル  
 善トセザルニ非ズ。然レ氏改ル丁甚少難キハ。  
 善神ノ御守ヲ失ヒ。邪神ニ魅セラルレハナリ。速

二被ヲ執行シ。皇祖天神ノ應護ヲ蒙リ。其靈威ニ  
 ヨリテ。邪神ヲ解除シ。惡念ヲ斷滅シ。素生ヲ保存  
 ス可シ。然ラザレハ惡益深ク。善益遠ク。近クハ身  
 體ヲ亡シ。遠クハ靈魂不窮ノ罪ニ陥ラントス。豈  
 恐レザル可シヤ。如是ナレハ。被ハ存世ニ執行ス  
 可キノミナラズ。又死者ノ為ノニ。必ス之ヲ執行  
 スベシ。ソレ人ノ世ニ在ル。大トナク。小トナク。顯  
 トナク。隱トナク。所為ノ邪惡刑罰ニ係ルトナク。  
 僥倖ニシテ處刑ヲ免ル。トナク。死後靈魂神靈  
 ニ到ルノ後。所為ノ惡業ニ應シ。邪行ニ適シ。竭ク



神明ノ刑罰ニ係ル此時ニ臨ンテ。千悔萬悟。天ニ  
 悲シミ地ニ哀シム。其罰ヲ免ル。ニ由ナシ。唯  
 顯存ノ人。死者ノ爲メニ。彼ヲ執行シ。善事ヲ勉メ。  
 善行ヲ修シ。人ヲ救ヒ。世ヲ益シ。功ヲ立テ。徳ヲ重  
 テ。死者ノ罪ヲ神明ニ禱請シテ。始テ其罪ヲ免  
 レ。神寵ヲ受ル。丁ヲ得ベシ。心ノト共ニ事ナク。身ト  
 故ニ死後靈魂。獨リ有テ。始テ罪ヲ免ル。願存ノ  
 代リテ罪ヲ贖フ。罪ヲ免ル。願存ノ。願存ノ。願存ノ。  
 得ル者アリ。自ラハ君王ニ罪ヲ立テ。罪ヲ免ル。願存ノ。  
 功ナルモ。功ヲ立テ。罪ヲ免ル。願存ノ。願存ノ。願存ノ。  
 請道アリ。始テ如シ。如是ナル故ニ。生前罪ヲ贖フ

ハ安ク。死後罰ヲ免ル。ハ難シ。人其レ此ヲ思ヒ。  
 天賦ノ當然。惟神ノ道ヲ守リ。身ヲ慎ミ。行ヲ勉メ。  
 醫藥ト鎮魂トニ頼テ。身體ヲ健剛ニシ。刑律ヲ顧  
 ミ。惡事ヲ恐懼シ。大後ヲ修シテ。邪念ヲ断除シ。  
 神君親ノ三大恩ヲ感戴シ。念々忘ル。丁ナク。妻  
 子從類ヲ慈愛シ。偏顧アル丁ナカレ。惟神ノ道。樂  
 キカナ。惟神ノ道。大ナル哉。方今猶敬神ノ徒。稀ニ  
 シテ。淫佛ノ黨夥ク。皆謂ラク生テハ神ノ恩頼ニ  
 ヨリ。死テハ佛ノ救助ニ預カルト。何ゾ思ハザル  
 丁ノ甚シキヤ。稻種ヨリ生ズル者ハ稻ナリ。麥種



ヨリ生スル者ハ麥ナリ。神ノ裔孫ニ出テ、佛ノ  
 救助ニ籍ル。萬モ其理有ルヲ無シ。釋迦モ亦印度  
 古昔ノ一人。神ノ靈威ニ頼テ生レ。神ノ靈威ニヨ  
 リテ成長ス。須ラク神ノ靈威ニヨリテ。人ヲ利ス  
 ルヲハ有ル可シ。然レ凡トシテ。如何ソ舉世ノ  
 人魂ヲ救助スルヲ得ンヤ。復古以來。漸ク此理  
 ナ知覺シ。佛葬ヲ改メ。神葬ニ歸シ。死生共ニ神ニ  
 倚頼スル者。往々有リト雖凡。中古以降。佛魔盛ニ  
 世ヲ惑シ。古代ノ式。廢失殆ント見ルベキ者ナシ。  
 一新日淺ク。其書未ダ興ラズ。一二ノ畧式ト云フ

モノ有リト雖凡。唯行裝ノ式。拜禮ノ儀ノニニシ  
 テ。靈魂ノ幸福ヲ。冥神ニ禱請スルノ典ヲ欲ゲリ。  
 今竊カニ古籍ニ散見スル者ヲ考ヘ。情ニ基ツキ。  
 理ニ照ラシ。私ニ定ムルヲ。附録ノ如シ。者官宜シ  
 ク。取捨補闕以テ世ニ施コシ。一人モ真道ニ歸ス  
 ルノ多キヲ得バ。豈唯予カ幸ノミナランヤ。



附錄

靈祭式

先靈室ヲ灑掃シ。吾行祭詞ヲ讀ム。

其詞

某乃靈乃御前爾。何其恐美懼美。白左。汝靈乃  
 御祭仕奉。良久止。汝靈幽神等乃。御受王  
 比。御惠乎蒙。玉。御為止。志。冥府乃神等。被所  
 乃神等乃御前乎。辨和利。額。突奉。利。被事。取行  
 比。靈乃幸祈奉。良久。平計安久。聞食止。白寸。  
 次鹽水ノ行事ヲ為シ。荒薦ヲ敷キ。注連ヲ延キ。靈



方四脚机ヲ置キ。机上ニ玉串鹽水切幣散米茅輪  
雜形等ヲ置ク。

○初座清被

齋主齋輔。共ニ進テ一揖シ。再進歩一着座再并拍手。  
次齋主鹽水切幣散米等ノ事ヲ行フ。畢テ共ニ再  
拜。

次齋主正笏シテ。被所ノ神等ヲ拜ム詞ヲ讀ム。一  
段毎ニ一拜ス。

其詞

掛卷母畏支。被所能大神止。禰辭竟奉留。源織

津姫シメノ神カミ能ノ御前ミマエ子コ畏オソ美ミ畏オソ母ハハ遙トホ爾ニ拜マカ奉マカ留ル。

上文同例。速秋津姫神。下文同例。

上文同例。伊吹戸主神。下文同例。

上文同例。速佐須良姫神。下文同例。

次齋主齋輔。共ニ拍手清被詞ヲ讀ム。讀數畢テ拍  
手再拜。退テ安一揖ス。

○幽神祭

齋主齋輔。共ニ進ム丁一步。齋主正笏シテ。幽府神  
等ヲ拜ム詞ヲ讀ム。畢テ共ニ拍手再拜。

其詞







留物志有禮神乃旋乃隨爾世乃中乃事乎勤  
 米人乃業乎營民神乃御許爾反命為邊者止  
 成定利然成定麻勝禮神習得傳青入草習武奈時  
 其罪後却止詔定旋賜志後乃隨爾其業取行  
 奈其罪後却却都禮某加在世爾過犯武罪科華乎  
 清久計鮮久計見直志聞直志坐氏波布良志賜布  
 事無久幸閉賜止鹿自物勝折伏鴉自物項根  
 突拔或恐美恐毛請祈白寸  
 次齋輔。祭具並二注連ヲ。撤却ス。

○靈祭

齋輔靈前ヲ修飾ス。  
 次手長供膳。  
 次齋主進テ。拍手一拜。供膳ノ詞ヲ讀ム。

其詞

其靈能御前仁。齋主何某申久佐。親族他人。諸伊  
 與利集比。御祭任奉良久止。其業執行比。御饗  
 備奉利。任奉良久。平久計安久計。看行志聞食止。恐  
 美恐毛申寸。

次陪客配膳。  
 次手長撤膳。



次陪客散席。

明治八年十月田内逸雄拔并書



製本師 藤田全門

出版免許

出版人

田内逸雄

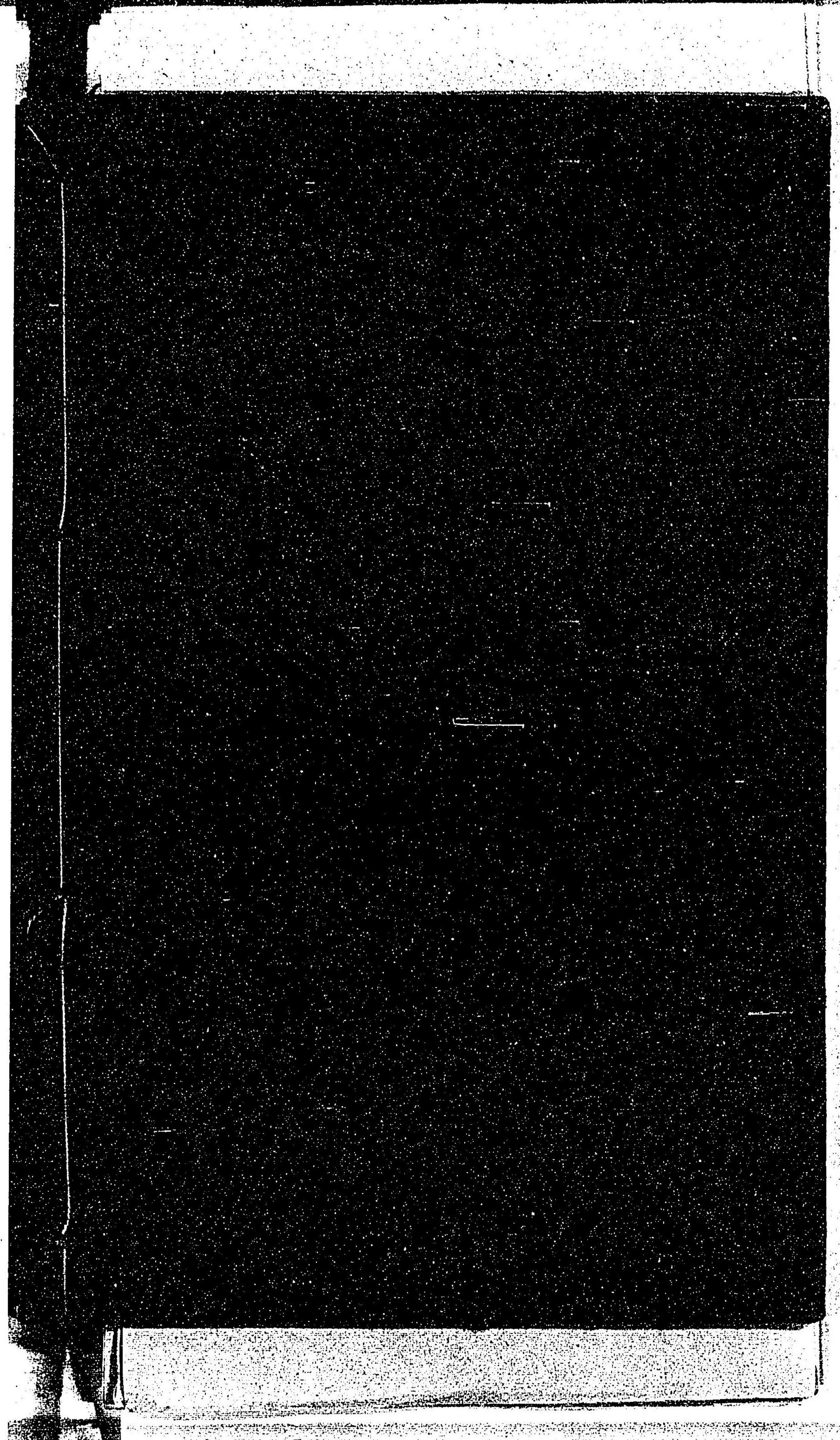
第五大區七小區下谷仲御伎町三丁目番地奇留

第一大區六小區通壹丁目五番地

賣弘人

北畠茂兵衛







特 35  
770

014650-000-4

特 35-770

道一言

木村 信競/述

M8

ABB-1082

